北海道清里高等学校　学校運営協議会

コミュニティスクール通信

令和６年度第１号（令和６年６月 24 日発行）

【旧職員　牛島先生作　校舎からの斜里岳】

○６月７日（金）第１回運営協議会が清里高校会議室で開催されました。○

今年度１回目である今回は、学校運営の状況説明後、スクール・ミッションの確認、今年度の取組について部会ごとのグループ討議を行いました。

①　スクール・ミッションの確認について
（背景）スクール・ミッション再定義から３年が経過したことから、見直す機会となった。

◆委員からの意見
・大事なことは具体的な取組内容である。これまでの取組が新しいプロジェクト事業に進化していること、T-base による進路面での成果など、評価表に書かれている内容は評価できる。
・「学びの推進」と「教育の展開」とあるが、教育とは教え育むことであり、普及することが大切であることを共通認識する必要がある。

◆質疑・応答
(Q)　内容は良いと思うが、今後何年間継続となるか？
(A)　３年と考えている。内容の方向性は良いが、達成度が不十分のため、継続すべきと判断した。
(Q)　先生方の働き方改革が進む中、地学協働は先生方の協力も必要不可欠である。どのような体制を考えているか？
(A)　学校の地域への参画は、本協議会や新プロジェクトの中でご意見やアイディアをいただき、学校の体制の整備や強化を図っていく。
(Q)　今春の国公立大学４名合格は T-base 導入の成果と考えて良いか？成果があがっているのであれば、地域にもっと情報発信をしていくべきと考える。
(A)　合格は成果の一つである。T-base による教育課程のワイド化は生徒募集につながっている。
(Q)　町内の求人状況はどの程度なのか？求人が少ないから町外へ出て行くのか？教えてほしい。
(A)　求人状況は、十分な状況である。大学、専門学校進学などで地元から一度離れ、何かを得た後に戻るＩターン、Ｕターンの方も多い。

②　グループ討議「今年度の取組」について
◆討議の観点
「地域と学校の Win-Win の関係を構築するために必要な取組とは」

◆討議のまとめ
【異校種間連携部会】
・中高生 NZ 研修後の報告会について、「国際理解のつどい」という催し物的要素で小学生が受け入れやすい形での開催がいいのではないか。
・生徒同士、教員同士のコミュニケーションを深めていけるような、小中高の授業交流に取り組むべきではないか。

【地域連携部会】
・町民が生徒の活動を直接見ることができる状況をつくることが大切であり、生徒にはいろいろな行事に参加してもらいたい。その参加できる行事をピックアップするのが部会の業務だととらえている。例えば、話題に上っている「産業まつり」では、高校生がブースを運営することを最終目標にするのが良いと考えている。とにかく、道路清掃、フォーラムなど、様々な催しに高校生が参加する、直接町民とふれあうことができる状況を多くつくりたい。

【地域学部会】
・地域の方々から高校生との関係性を深めることが不可欠ではないか。
・町教委が主催する青年育成事業「未来塾」で、地域課題を洗い出した際、青年が考えた課題と小学生が考えた課題がほとんど同じ内容になったことから、地域青年と高校生、幼小中も含め連携した課題解決に向けた取組も可能ではないか。